

平成24年度第5回移動市長室会議録

(平成24年 8月3日)

1 日 時：平成24年 8月3日（金）、10時00分～12時00分

2 場 所：天山公民館

3 出席者：

『天山ふれあい会』

藤野会長、櫻田会員、井上知義会員、新田会員、溝口会員、井上元生会員、大坪会員、
末次会員、水崎会員、高山康親会員、神崎会員、高山スミ子会員、有田会員、
魚屋会員、伊藤会員、熊谷会員、鬼木会員

『筑紫野市』

藤田市長、北橋市民生活部長、榎木秘書広報課長、萩尾戦略企画課長、
中川環境課長、大久保環境課長補佐、坂井環境課主任、
松隈秘書広報課主任、木下秘書広報課主事補

4 内容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） 皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、天山ふれあい会の皆様には貴重なお時間をいただいております。本当にありがとうございます。

ただいまから平成24年度第5回移動市長室を始めさせていただきます。移動市長室とは、一定の目的を持ち活動をしている市内の団体、グループの方と懇談をさせていただき、そこでの意見や要望を今後の市政に活かしていこうとするものでございます。今回で通算13回目の開催となっているところでございます。

本日の懇談は、お手元の次第のとおりに進めさせていただきます。市長あいさつ、天山ふれあい会会長のごあいさつ、出席者の自己紹介、そして懇談の順でまいります。懇談では天山ふれあい会の活動内容といたしまして、会の目的や今日までの主な活動経過、活動の課題、そして今後の方向性についてお話をいただきます。最後に、御要望をお話いただきまして、市のほうから回答をさせていただきます。途中、私のほうからいろいろと質問をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

本日の懇談内容は会議録を作成いたしまして、市民に公表させていただきます。また、お撮りしました写真は市の広報紙やホームページに掲載をさせていただきますので、皆様方の御了解をよろしく願いいたします。

本日の懇談会、有意義なものとなりますように、どうぞよろしくお願いいたします。

ではまず初めに、藤田筑紫野市長が皆様にごあいさつを申し上げます。

○（藤田市長） 皆様こんにちは。平成24年度第5回移動市長室を天山ふれあい会の皆様とさせていただくことになりました。天山ふれあい会の皆様方におかれましては、平素から市の行政の各般にわたり、御理解と御協力を賜っておりまして、この場を借りて心から厚く御礼を申し上げたいと思っております。

先ほど、井上知義副会長の先導で、山畑池まで歩かせていただきました。その折に藤野会長からのごあいさつもいただきました。散策道において、草木で通りにくい場所があるのではないか、土砂で多少崩れているところがあるのではないかと思っておりましたが、道中の散策道の草刈り、清掃等がきれいにされておりました。その御努力に感謝し、敬意を示すところでございます。

また、^{どうなんかんによいわ}童男卯女岩付近にも、桜やモミジの木の植栽、藤棚の設置、雑木の伐採等、景観を保つための整備が進められていると聞いているところでございます。天山公民館に来る道中で、柴田城跡と童男卯女岩までの案内板が各所に掲げてありましたので、拝見させていただきました。

これらの整備により、地域の環境保全づくりに取り組んでおられることに感謝を申し上げますところでございます。

本日は、皆様方の天山ふれあい会に対する思いを聞きながら懇談をさせていただき、ここで出た意見を今後の市政の運営等に生かしていきたいと考えております。そして、天山地区の発展にもつながる市政の運営ができればと、そのようにも思っているところでございますので、よろしくお願い申し上げます、あいさつにかえさせていただきたいと思っております。本日はまことにありがとうございます。

○（事務局） 続きまして、天山ふれあい会、藤野会長よろしくお願いたします。

○（藤野会長） おはようございます。本日は猛暑の中の移動市長室ですが、ボランティアグループ天山ふれあい会を移動市長室の対象団体に取り上げていただき、ありがとうございます。本日、藤田市長をはじめ、市役所の方々がたくさんお見えになっております。日ごろから何かと御指導、御支援を賜り、感謝申し上げます。

天山ふれあい会の活動は10年近く継続しております。活動が継続できているのは、ひとえに藤田市長、筑紫野市、福岡県の御支援をいただいているからでございます。まずもって御礼を申し上げます。ありがとうございます。

きょうは童男男女岩まで行っていただけておりませんが、徐福伝説がございまして、その伝説を史実にしたいという夢がございまして。また、阿志岐山城跡が国指定史跡となりましたので、天山地区だけでなく、御笠全体が活気づく夢を見ながら、活動を続けさせていただいているところでございます。ボランティア活動を通しまして、会員の健康増進を図り、みんなで夢を追い続けております。

本日は我々の活動の実態をご覧いただきまして、今後とも御指導いただきますよう、よろしく申し上げます。

○（事務局） どうもありがとうございました。続きまして、出席者の自己紹介でございます。まず、行政側からさせていただきます。

私、本日の司会進行をさせていただいております秘書広報課の楢木と申します。どうぞ最後までよろしくお願いいたします。

○（市民生活部長） 皆さん、こんにちは。4月1日から市民生活部長として務めさせていただいております。精いっぱい努力してまいりたいと思っております。北橋と申します、どうぞよろしくお願い致します。

○（環境課長） 皆さん、こんにちは。環境課長をさせていただいております中川と申しま

す。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○（戦略企画課長） 皆さん、こんにちは。戦略企画課課長の萩尾です。よろしくお願いいたします。

○（環境保全担当） こんにちは。環境課の坂井と申します。どうかよろしくお願いいたします。

○（環境課長補佐） こんにちは。環境課、課長補佐をしております大久保と申します。よろしくお願いいたします。

○（事務局） 秘書広報課、秘書広報担当の松隈と申します。よろしくお願いいたします。

○（事務局） こんにちは。秘書広報課、木下と申します。よろしくお願いいたします。

○（事務局） 以上が行政側の自己紹介でございました。

続きまして、天山ふれあい会の皆様、よろしくお願いいたします。せっかくでございますので、天山ふれあい会のPRを兼ねて自己紹介をしていただきたいと思います。

○（藤野会長） まず、役員の方から御紹介します。名前を呼ばれたら、その場で起立をよろしくお願いいたします。櫻田顧問でございます。

○（会員） 櫻田です。

○（藤野会長） 最初のあいさつを申し上げました会長の藤野でございます。よろしくお願いいたします。

それから、井上副会長。

○（会員） 井上です。よろしくお願いいたします。

○（藤野会長） 続きまして、副会長の新田でございます。

○（会員） 新田と申します。よろしくお願いいたします。

○（藤野会長） 会計を担当しております、溝口でございます。

○（会員） 溝口です。よろしくお願いいたします。

○（藤野会長） それから、広報担当の井上でございます。

○（会員） 井上です。

○（藤野会長） 井上元生さんは区長もやっております。よろしくお願いいたします。

では、会員の方のお名前を続けて呼びますので、何か一言思いがある人は立って自己紹介をお願いします。

会員の大坪さんでございます。

○（会員） 私は今年で3年目になります。1年目はとてもきつく、山に登るのも下りるのもいつも最後でした。しかし、今では皆さんに負けないよう、すいすい行けるようになり

ました。そういうのは非常によかったと思っております。どうも、ありがとうございます。

- （藤野会長） 会員の末次さんでございます。
 - （会員） 末次と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
 - （藤野会長） 会員の水崎さんでございます。
 - （会員） 水崎です。よろしくお願いいたします。
 - （藤野会長） 女性陣が3人見えております。高山康親さんの奥様でございます。
 - （会員） 高山です。
 - （藤野会長） 会員の神崎さんの奥様でございます。
 - （会員） 神崎でございます。
 - （藤野会長） 山にも入って頑張っていております高山スミ子さんでございます。
 - （会員） 高山です。よろしくお願いいたします。
 - （藤野会長） この人にも頑張っていております、会員の鬼木正春さんでございます。
 - （会員） 鬼木です。よろしくお願いいたします。
 - （藤野会長） 会員の熊谷さんでございます。
 - （会員） 熊谷です。よろしくお願いいたします。
 - （藤野会長） それから、皆さん御存じの元市議会議員の伊藤さんでございます。
 - （会員） 伊藤です。下阿志岐には「宝満川を守る下阿志岐の会」があります。8年ほど前に、天山ふれあい会が宮地岳中腹にある童男少女岩までの散策道をつくっている等の話を聞いたので、私も参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。
 - （藤野会長） 会員の魚屋さん^{うおや}でございます。
 - （会員） 魚屋です。私は春日市のほうに住んでいましたが、天山ふれあい会ができたころに、仕事の都合でこちらに引っ越してきました。最初の1年間は会の広報を見させてもらっていて、非常にいいことやっているなと思っていました。日曜日に1回の活動ということでしたので、何とかやりくりすれば参加できるのではないかと考え、参加させてもらうことにしました。
- 春日市は過去に工場の誘致もしていましたが、住居が建つようになって、臭気や振動、煤煙等、いろいろ問題を言われるようになり、そのたびに改善をしていました。また、那珂川町の人口も急激に増えていました。地元が整備できていないうちに外部の人がどんどん入ってくることで、以前自分がいたところはどうやった、ああやったという人が増え、

地元の習慣や風習、歴史というものが無視されてしまっていました。

筑紫野市はまだそういう状態にはなっていないと思います。基礎ということではありませんが、みんなで団結して活動し、他区から来た人もそれに参画していくという形になればいいと思い、私は天山ふれあい会に参加させてもらいました。参加させてもらってから今日まで、頑張って勤めています。

○（藤野会長） 元気ばりばりの会員の有田さんでございます。

○（会員） 昭和47年、ちょうど筑紫野町が筑紫野市になったところに、こちらに来ました。それから、天山ふれあい会には入ってからまだ1年にもならない新米の会員です。よろしくをお願いします。

○（藤野会長） この場にいる会員の紹介は以上となります。

○（事務局） ありがとうございます。以上で自己紹介を終わらせていただきます。

それでは、ただいまから懇談に入ります。まず天山ふれあい会から活動の内容につきまして、会の目的、今日までの主な活動経過、活動の課題についてよろしく願いいたします。

○（藤野会長） 活動内容についての説明をさせていただきます。

皆様方のお手元の資料4ページに天山ふれあい会の会則がございます。そこに会の目的、設立時期、組織体制といった内容が書かれております。

第1条、名称につきましては、この組織はボランティアグループ「天山ふれあい会」と称し、事務所を会長宅に置くということでございます。

第2条、目的につきましては、本会は天山いこいの広場『童男中女岩』を整備することを目的とし、併せて天山区民の融和に寄与すると、目的を書かせていただいております。

設立時期につきましては、会則の下のほうに平成17年4月10日より実施と書いております。ちなみに今日まで7年ほど経過しておりますが、天山ふれあい会として活動を開始するより前に、親睦団体といえますか、「八天会」という名称のもとに、自主的に3年ほど活動を続けておりました。きょうは来ておりませんが、前会長は大江さんでした。そういうこともありまして、10年近くこの会を継続させていただいております。

天山ふれあい会の作業日は月に1回でして、第2日曜日に活動しております。会員数は59名ほどになっているようでございます。

後ほど詳しい内容の説明を申し上げますが、会費といたしまして年会費を1,000円、会員からいただいております。

以上が会の目的、設立時期、体制でございます。ありがとうございました。

○（事務局） では、続いてお願いいたします。

○（会員） 続いて私のほうから、広報担当の井上です。

活動経過につきましては写真がありますので、写真を使ってお話をしていきたいと思えます。

先ほど会長が申しましたように平成14年から桜の植樹をいたしました。平成16年のときに「天山子ども会育成会」へ歴史と環境教育をおこなったときの写真です。そのときには植物の先生に話を聞いて木に名札をつけました。また、「天山子ども会育成会」は記念樹として桜の木を植えており、今ではかなり大きくなっております。

平成17年5月の写真ですが、山の上で活動の打ち合わせをしております。かなり切り開いた状態になっており、切り開いたときにコスモスを植えようということで種をまきましたが、雨で流れてだめになったみたいです。平成17年9月には桜の添え木の補修をしました。平成17年12月には山道づくりをしました。

平成18年にはかなり大がかりなことをしまして、友好門をつくりました。主に櫻田さんと溝口さんに重たい材料をかついでもらい、組み立てていきました。それから道案内板の設置、巣箱づくりの写真です。まだ途中ですが、友好門が大体でき上がったときの写真になります。

それから、先ほど視察のときに、山畑池付近の崩れたところまで行っていただきましたけれども、本当は尾瀬の踏み板みたいな道をつくっていました。しかし、平成21年の大雨で全部流れてしまいました。

平成19年には書家の方に揮毫していただきまして、「友好門」の門額を掲げました。こちらの写真は「御笠体育振興会歩こう会」が宮地岳を縦走していたときのもの、こちらは藤棚をつくったときの写真です。

平成20年には急坂に横木算木の階段づくりをいたしました。童男少女岩ふれあい広場づくりの仕事をしている写真です。高木神社境内に簡易便所を設置している写真、桜の植樹をしている写真です。

平成21年はふれあい広場の整備作業をいたしまして、缶ビールを持ち上げている写真です。それと、先ほど言いましたように平成21年7月の集中豪雨で算木が全部流れました。きょう山畑池の現状を見ていただいたと思いますが、土砂の影響を受けているため、保安林問題や池の浚渫しゅんせつについての要望書を出しております。しかし、今度は八女のほう

で集中豪雨があったため対応が遅れるのではないかと考えております。平成21年の8月には、山畑池の中に入り算木を全部ひろい上げ、池の中を通るような道につくりかえました。

平成22年には天山公民館横の大木を切り倒し、台風被害で家屋に被害が及ばないようにしました。こちらの写真は、区と協働で多目的広場の整地作業をおこなっている写真です。11月には小学校5年生を対象に、総合学習として現地環境教育の学習会をおこないました。説明をしている方は、ふくおか森林インストラクター会や野鳥の会の先生方です。

平成23年には桜の木を多目的広場に植えました。こちらの写真は2月に福岡県森林組合と共同作業で雑木を伐採したときのもので、このときは県の森林環境税の補助金ができました。こちらの写真は筑紫南コミュニティセンターの登山部に歴史案内をしているときのもので、これは道案内板の補修をしているところ、こちらは広場づくりをしているところの写真です。それから、9月には健康づくり運動サポーター80名ぐらいに、登山をしていただきました。11月には福岡県森林組合と共同作業で雑木を切りました。現在はかなり整備ができております。

それから、生物モニタリング調査を2回実施しております、平成23年の11月と平成24年の2月にやっております。そのときは森林インストラクター会の方や動物の先生と一緒に定点観察をおこないました。定点観察とは、例えばコナラの木は4月に花が咲き、夏には実がなり、その後紅葉になる、それを見て、これはコナラの木だということが分かるといったものです。

平成23年の阿志岐小学校で環境教育をやっているときの写真です。この日の現地環境教育は雨のために座学になったため、パソコン教室で天山ふれあい会がつくっているいろいろな資料を使って、勉強会をしました。平成23年の12月には、狼煙リレーのための広場づくりの過程で、大木を切り倒しました。狼煙リレーにつきましては後のほうで少し説明をさせていただくこととなりますが、長崎県諫早市高来町のボランティアグループに長崎から小倉までの狼煙リレーをしようと持ちかけられ、協力してくれないかと言われました。今はまだ進展しておりません。3県にまたがるような大事業でなので、一ボランティアではなかなかできないと感じております。

それから、こちらは平成24年の2月に多目的広場周辺に桜の木を植えている写真です。こちらが檀徒池の上の山道にアジサイを植樹したときの写真です。湿地帯ですので私たちの手でアジサイを植えておけば、杉林の間にアジサイが咲くのではないかと考えておりま

す。

以上になります。

○（藤野会長） 資料の3番目に活動の課題と書いてございますので、引き続き説明をさせていただきます。

①につきまして、会員は59名でございますが、毎月の雑木伐採作業等に参加する人数が少なく、多いときでも20名程度、少ないときには10名程度となっております。また会員の年齢が高いため、何とか若い方に参加していただきたいと思い、子どもたちに対する活動をやっておりますが、なかなか思うようにはいかず悩んでおります。

②につきまして、会員年会費は1,000円いただいておりますが、それでは活動ができません。現在活動ができているのは、筑紫野市市民協働のまちづくり助成金をいただいているからでございます。以前は、福岡県からも御支援をいただいておりますが、現在は途絶えております。

③につきまして、阿志岐山城跡が国指定史跡となり、注目度が高まったため、民間企業からも支援をいただけないか考えております。しかし、なかなか採用していただけないため、課題となっております。

④につきまして、森林保全活動に必要なチェーンソーなどの高額機材が不足しております。現在は、会員の方が自分の物を持ってきて使っております。

⑤につきまして、長崎県のほうから、狼煙を童男卯女岩周辺から上げようという話がきております。そのため、我々もその呼びかけに応えるために、童男卯女岩周辺の大木を切りました。しかし、実現するためには多くの課題がありまして、県や市、そして地域の盛り上がりがかかせないと思っております。

⑥につきまして、御笠振興会及び山家コミュニティ運営協議会から阿志岐山城跡も含めた登山ルート整備の話がきております。整備する場所が何箇所もあるので、それを共同で整備していこうという話です。

以上が活動の現状、課題でございます。

続きまして、今後の方向性を申し上げたいと思います。手元にある資料の2番目に、4つの活動の継続が書いてあります。

1、童男卯女岩を中心にした森林保全活動です。

2、多目的広場を中心とした地域環境保全活動です。

先ほども少し話がありましたが、大きいサイズの機材、例えばクレーンや高所作業車の

ようなものが必要になります。もちろん、リースをすればいくらでもあるんですけど。

3、環境教育を子ども会や小学校を対象に考えております。

4、宮地岳自然観察会、生物モニタリングがございます。

次のページには要望が書かれております。ありがとうございました。

○（事務局） 活動内容や今後の方向性について御説明いただき、ありがとうございます。

皆様方の活動内容が伝わってまいりました。要望につきましては、最後のほうに時間を設けておりますので、そこをお願いいたします。

いくつか私のほうから質問をさせていただきたいと思っております。天山ふれあい会の目的としまして、伝説を史実にしたいという夢があるとおっしゃいました。事前に勉強をさせていただきましたところ、宮地岳にはロマンをかき立てる徐福伝説があることを知りました。徐福伝説の概要をもう一度お聞かせいただけないでしょうか。そして、天山ふれあい会の方は徐福伝説をどのように受け取っていらっしゃるのでしょうか。その想いをぜひお聞かせいただきたいと思います。

○（藤野会長） 会報誌を毎月1回出しており、その会報誌の中に、会員の皆さんの童男女岩に対する想いだけでなく、伝説も含めた想いについての企画がございます。そのことにつきまして、会の広報担当をしております井上のほうが詳しいので、井上から説明をしていただきたいと思います。

○（会員） 徐福伝説を史実にするためには、人や物が残っている必要があります。中国には、史書に徐福が出航したことが載っているだけでなく、その船着き場も残っており、徐福の子孫もたくさんいます。それに対して、日本にあるのは伝説ばかりです。

佐賀の金立神社には、徐福が千反の布を敷きその上を歩いたという古文書が伝えられており、千反の布を敷いたといわれているその場所は「千布」という地名になっています。福岡県にはもう一つ徐福伝説のある地がございます。その場所は八女市でして、そこには童男山があり、地域の小学生、中学生が毎年お祭りの中で劇をやっています。

それから、佐賀には徐福国際シンポジウムがありまして、これは台湾や韓国、中国などの徐福に関する研究をしている方々が集まる国際シンポジウムです。そこに参加をさせていただいて、勉強をしてきました。私は、歴史を知ることが郷土を愛することになると思っております。

○（事務局） 狼煙台についてお聞きしてもよろしいでしょうか。

○（会員） 今後の方向性の最後に書いてありますが、狼煙台について長崎県諫早市高来町

にある「あけぼの会」から連絡がありました。

江戸時代にフェートン号事件がありまして、オランダと偽ったイギリス船が、食糧や水を調達していきました。そういう事件が起こったときに、城主に知らせるために狼煙台ができました。狼煙台は長崎からここを中継して小倉までいくルートと、ここを中継して四王寺、そして福岡城に行くルートに分かれています。実験的には天山の狼煙台、四王寺の狼煙台、鳥栖の朝日山の狼煙台は狼煙上げに成功しております。

対馬の山城から熊本の鞠智城までの縦のラインで古代山城サミットがおこなわれており、そこでは既に狼煙リレーが成功しております。天山は横のラインにあたる場所にありまして、縦のラインと横のラインとで十字路になります。ですから、狼煙上げを縦のラインだけでなく、横のラインも実現できたらと思うとロマンを感じます。

○（事務局） ありがとうございます。天山ふれあい会の活動が盛んになっていっているのは伝説等の存在も影響していると思っております。

春日市から転入をされて来られて、天山の史実に興味を持たれたという発言が先ほどありました。感想で結構でございますので、どのように感じられているのか教えてください。

○（会員） 先ほども言いましたが、もともとその地域におられる方がしっかりと取り組むことによって、他の地域から来た人も興味がわくと思います。私も他の地域から来て興味がわきました。

こちらに来て、最初の1年間は会報等でいろいろな史実関係の資料を見させてもらい、これはおもしろいなと思いました。戦国時代などではなく、それ以前の本当に純朴な日本の史実がいろいろ語られており、見ることもできます。天山の人だけではなく、筑紫野市、もっといえば福岡県の人たちに関心を持ってもらえたらいいなという思いで、活動に参加させていただいております。

小郡に行ったら干潟工業団地がありますよね、昔はそこも海でつながっていたのではないかと聞いた話まであり、どんどんスケールが大きくなっています。干潟工業団地が昔は博多湾とつながっていたのだとすると、金立神社も近くにありますが、徐福伝説の船の話もありうるのではないかと思います。広報担当が言っていましたが、そういうものを積み上げていくことで史実が出てくるのではないかと、というロマンを持っております。

○（事務局） ありがとうございます。

活動経過を詳しくパワーポイントで御説明をいただきました。事実上平成14年度から活動をしており、10年近く活動をしているということでございますけれども、一番印象

に残った作業はございますでしょうか。童男峠女岩を中心に整備をしていただいたわけでもございますけれども、やってよかったなというような事業があれば、ぜひ井上副会長にお聞かせいただきたいと思います。

○（会員） 作業をやる時はヘルメットをかぶり、ノコギリやチェーンソーを持ってやぶに入ります。作業のストップの合図を笛などでやっておりますが、作業をすることにはまってしまい、なかなかすぐにはやめられません。それくらい仕事をやりだしたらおもしろいんです。一生懸命に仕事をすればいい結果が出ますし、本当に楽しくなるので、いつもやってよかったなと思っております。

もう一つ、私も主催者みたいことをしております、お茶はお互いに家から持って来ていただいております。こちらから、おにぎりを一つでも出せたらもっといいのかなと思っております。ただ、それはボランティアの領域ではないだろうなどは考えております。

○（藤野会長） 井上副会長からもお話がありましたが、年に1回は天山共有林管理組合の方々と天山ふれあい会の共催ということで間伐等を行っております。組合の人数は40名弱だと思います。

間伐にはチェーンソーが必要になるんですが、チェーンソー1台に対して4人ないし5人ぐらいの人がつきます。檀徒池のすぐ上から大木が覆いかぶさっているために、山が暗くなっています。しかし、間伐を3年ほど続けている関係もありまして、今では下から童男峠女岩が目視できます。それと、覆いかぶさっていた木を整備して、その場所にアジサイを植えるなどを行っておりますので、宮地岳の登山道が非常に明るくなったという印象を持っております。

そのほかにも友好門や藤棚など、いろいろと大きな作業をやってきて、山全体としての明るさがでてきたため、非常に気持ちがいいです。筑紫野市のいろいろな団体に登っていただく機会が多く、皆さんから好評をいただいております。

○（事務局） 童男峠女岩には友好門という木造の立派な構造物ができております。先ほど、櫻田さんたちの熱意による成果だとお聞きいたしました。友好門の設置は大変だったと思います。櫻田さん、その辺の御苦労話はございますでしょうか。

○（会員） 活動を始めてからもう10年近く経ちますから、年をとったことを感じました。でも、やってよかったなっていう思いはあります。

○（事務局） 友好というのは、天山とどこの友好になるのでしょうか。

○（会員） 徐福伝説がありますし、中国との友好です。

○（事務局） 阿志岐小学校の生徒の総合学習の時間を利用して山の中に入り、環境教育をおこなっているところの写真を見せていただきました。宮地岳や童男女岩、徐福伝説に対する子どもたちの反応について、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

○（会員） インストラクター代表は溝口さんの奥さんでして、植物の先生です。現地での教育、手足を動かしての教育というのは非常に大事です。現地に入り、座学で勉強した内容を手足を動かして確認することは、とても関心が高まり力になる、という感想があります。

そのときは森林環境税の問題もありましたから、森林環境税について知っているか聞いてみたところ五、六人の児童が知っていました。家の方がそういう話を知っているというのものもあるかもしれませんが、子どもは何にでも関心があるんです。

そして、森林活動や環境教育を続けたい人が8割ぐらいおまして、現地に行くことが大事なんだと強く感じました。ところが、今は教材がなくなってしまうため、教師をお願いをしまして、環境教育に関係する部分を予習していただき、現地に入るという形をとっております。今年の環境教育は11月ごろになると思います。

○（事務局） わかりました。ありがとうございます。

筑紫南コミュニティセンターのグループや、御笠体育振興会歩こう会、健康づくり運動サポーターの方々に登っていただいておりますけれども、登山者の人数は増えておりますでしょうか。

○（会員） 遠方の方々が土日に登ることがあります。それだけ有名になったんだろうと思いますし、非常にいいことだとも思っております。

○（会員） ここを登るのに結構時間がかかるため、看板を立てております。

それから登山を目的とする方々のほかにも、ここには観音様などがありますので、それを目的として回られる方々もおります。

○（会員） 高木神社から童男女岩まで20分程度で登れるといったこともあると思います。それに、あそこまで登ると結構見晴らしがいいんです。最近は何人かのグループで登っているのを見かけますし、やはり有名になってきているのではないかなと思います。手軽に登れますし、整備をしすぎていないので登山道らしくない登山道といいますか、自然も残っていて楽しめるんです。これは天山ふれあい会にお金がないからと思っているかもしれませんが、コンクリートの石段にするなどの整備をしてしまうと、観光的な場所になってしまうからです。また、間伐した際の本を切って柱にしたり杭にしたりすることで、

手づくりらしさがあっていいなと思います。

○（事務局） 風情が残っていていいですね。市民の憩いの森ですしね。

○（会員） これは岩の上から撮った写真です。こちら側が耳納連山^{みのう}で、これは天拝山、こっちは脊振山です、それでこっち側のここにあるのが玄界灘ですね。童男^{わらわ}女岩の上にあると有明海方面から博多湾を全部見通せるんです。

○（会員） 私は筑後川の歴史について、いろいろな資料があるところに行っております。昔は豊後から津福あたりまで海だったのが、だんだん柳川や大川あたりまで陸ができてきて、現在の筑後川の形になったとのことです。それから考えると、徐福さんが遠賀川をのぼってきたことも、やぶさかではないと思うんです。

○（事務局） 最後の質問とさせていただきたいと思います。

先ほど課題の中に、若い人たちの新規加入がないために労働がきつくなっているという話があったと思います。若い人たちの新規加入に向けまして、何か工夫をなさっている点など、手立てを打っていることがあればお聞かせいただきたいと思います。

○（藤野会長） やっていることとしては、子どもたちが童男^{わらわ}女岩周辺に桜の木を植えたんですが、その桜の木は我々が山の上まで運んだものでして、最後の植える作業だけを子どもたちにやってもらい、植えた桜の木には誰が植えたのかが分かるように、子どもの名札をつけております。

本音を言いますと、その子どもたちが成長して大きくなったときに我々の活動を継承してもらいたいということ。また、保護者の方に参加してもらいたいという思いがあります。ただ、巣箱づくりもやっておりますが、なかなか参加者が集まりません。

9月2日の日曜日は、子どもたちにとって夏休みの最終日になります。学校は子どもたちに、夏休みの間にボランティア活動に参加するように言うておりますので、ぜひ子どもたちに天山ふれあい会の活動に参加していただきたい、という話を学校にしております。

これは御笠振興会連絡協議会の資料です。宝満川にもゴミがたくさん流れているため、8月25日に一緒に宝満川を遡^{さかのぼ}る活動^{活動}を御笠振興会の自然環境部会、文化遺産部会でやろうと計画をしております。

参加者がどのくらいあるのかわかりませんが、若い人に参加してもらうのは現実にはなかなか難しいものでして、悩んでおります。

○（事務局） 続きまして、天山ふれあい会の要望の読み上げをよろしくお願^{ねが}いいたします。

○（藤野会長） 筑紫野市が推進している宮地岳の「環境指標の森」と宮地岳にある阿志岐

山城跡の保全活動を一体的に進めるような、課セクトを乗り越えたプロジェクトを立ち上げていただきたいと考えております。そして、天山ふれあい会はその支援活動として、山道の整備や森林保全活動をしていきたいと考えております。

それから山家地区の山家コミュニティ運営協議会からも話がございまして、宮地岳に登る道と一緒に整備をしようという話と、宮地岳の旭化成の下にある地下トンネルを観光資源にしようという話が天山ふれあい会にきております。

ところが、行政からの指導がないとなかなか進みません。その辺の御指導をぜひお願いしたいと思っております。

○（事務局） では、ただいまの要望事項に対しまして、藤田市長から回答を申し上げさせていただきます。

○（藤田市長） 天山ふれあい会の説明で、パワーポイントまで使っていただいて、説得力のある活動報告をしていただきました。

この阿志岐山城についてもふれられましたけれども、ここは徐福伝説にもつながりがあるのではないかと見ております。現在の筑紫野市としましては、文化振興課が阿志岐山城跡保存整備計画専門委員会というのを立ち上げております。その委員会は考古学者あるいは古代史、あるいは植物学の専門家と地域代表の8名で構成されておまして、2年間で本計画を策定する予定になっております。今後、御要望のように環境課と文化振興課で情報を共有いたしまして、皆様方の要望に合わせて、適切な対応ができるように便宜を図っていききたいと思っております。

○（事務局） それでは、約束の時間となりました。本日は天山ふれあい会から現状、課題等をお伺いすることができ、大変有意義なものになりました。ありがとうございました。

閉会にあたりまして、双方からお言葉をいただきたいと思っております。まず、天山ふれあい会の井上副会長、よろしくお願いたします。

○（会員） 本日は御多忙の中、移動市長室を開催するにつきまして、市長をはじめ、市の幹部の方々にお越しいただき、まことにありがとうございました。

当初の私たちの動きは、天山区に何か貢献をしたいというところから始まりました。そして皆様方に支えられ、今日に至りました。日本や世界が大きく激動する中でも、このような小さな活動をすることが、天山、筑紫野市、日本がよい方向につながるものと思っております。

私たちも、きょうの貴重な体験を今後の活動に生かしていきたいと考えております。今

後とも天山ふれあい会の活動に御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本日御列席の皆様方の今後のより一層の活躍と、それから御健勝をお祈りいたしましてお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

○（事務局） どうもありがとうございます。最後に藤田市長が皆様方にお礼の言葉を申し上げます。

○（藤田市長） 徐福伝説にまつわる天山地区の熱い思い、そのロマンを聞かせていただきました。この地域に一つのシンボルをつくり、それを継承、伝承しながら地域の発展につなげていこうとしていらっしゃる。そのための10年の活動報告を聞かせていただくことができたことに、非常に感謝しております。

特に印象に残りましたのは、最初は登れなかったが、この活動を通じて登ることができるようになった、という大坪さんの言葉です。健康維持をそこに見い出しており、地域の活力にもつながっていると思いました。また魚屋さんのお話でもありましたように、他の地域からここに来てこの地域を見ると、古い歴史があり、地域が自然を残し、そういうところに魅力を見つけ出そうとしており、その自然体の姿に自分も魅力を感じたとおっしゃってございました。

筑紫野市も、旧石器時代から考えると、2万年ぐらいの歴史があります。山家には1万年ぐらい前の土器が出てきています。天山にも2,200年ぐらい前の始皇帝の時代の徐福伝説が存在しており、ここは歴史の宝庫だと思っております。

そして大野城や水城、大宰府政庁、基肄城あたりと連携して1350年祭をするための実行委員会ができております。その中に筑紫野市が入っていきます。井上広報担当がおっしゃっていましたが、歴史に学ぶことがこれからの豊かな人間性を育むために必要なことではないだろうかと思っております。

藤野会長や井上副会長たちが天山ふれあい会を引っ張り、すばらしい事業をしております。天山区長を中心とした天山区のまちづくり委員会からの陳情もいただいているところでございます。

すべてがすぐにできることはありませんが、要望の裏づけとして地域活性化あるいは継承していくべき自然を大事にしていく営みなど、これらを市として重く受けとめさせていただきます、今後の発展につなげていきたいと思っております。また天山地区の発展にも、市として貢献できる部分を見い出していきたいと思っている次第でございます。

有意義な移動市長室を開催いただきましたことを心から感謝申し上げます、お礼の言

葉にかえさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○（事務局） では、以上をもちまして本日の移動市長室、すべての次第を終了させていただきます。本日はまことにありがとうございました。